



市議団ホームページ
Eメール
ブログ
和歌山市議員団

http://jcpwkym.sakura.ne.jp/
jcpwkym@apricot.ocn.ne.jp
http://sachikogo.exblog.jp/
TEL(435) 1113 FAX (421) 4181



「報告」ごみ焼却施設・岡崎第2工場

9月議会での一般質問では「認定ことも園について」、「子ども総合支援センターについて」、「岡崎第2工場の解体について」の3点を取り上げました。今号では地域の問題として関心の高いごみ焼却施設・岡崎第2工場の解体について報告します。

工場の解体について

岡崎第2工場は1975年～1997年までの23年間、一般ごみを焼却する施設として稼働してきました。休止してから2005年に煙突が撤去されたものの、焼却炉については20年近くそのまま残されています。

南インターチェンジの創設に伴い、延伸が進んでいた南港・山東線(市道)のルート変更により、延伸が進んでい

安全に進んでいくのか?

敷地内の土壌は事前調査を行い、基準を超えていた土壌については法令に基づいて大阪湾フ

更で焼却炉の撤去が必要となり、今年の4月から本格的な解体作業が始まっています。

私は解体の工程や作業内容を質すとともに今後のスケジュー

ル、地元住民のみなさんに情報を詳しく伝えるよう求めました。

いつまでかかるのか?

2016年12月には工場棟を大型テントで覆い、地上部の建物を解体、2017年7月に完了予定です。その後大型

トを撤去し地下構造物を解体します。2018年度中にはすべての建物の解体を完了し、場内整地を行う予定です。



もっと知らせるべきでは?

2014年2月、東部コミュニティセンターにて和歌山市が行った第2工場土壌調査の結果についての説明会には104人が参加しました。

2015年10月の解体撤去工事についての説明会は2回開催し、岡崎・西山東・安原地区より61人が参加しました。

粉塵飛散や騒音、振動への対策、有害物質飛散防止用の大型テントの管理体制、東高校や中学校小学校の通学路への対策など、いただいたご意見を受け止め対処しています。

工事概要や進捗状況についてお知らせするために、今後は回覧板やポスティングによるお知らせとともに、コミュニティセンターへパンフレットを設置するなど新しい情報提供に努めて参ります。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、最近の良い気候といえる時期がなくなってしまうように思います。それでも、うだるような暑さからはやっと開放され、朝・夕の涼しさと虫の声がにぎやかな秋たけなわです。今年台風発生が多かった。この原稿を書いている今は18号の行方が気になっています。この台風がどこにも上陸することなく過ぎていくことを祈るばかりです。



9月議会報告

9月7日開会された定例会市議会は、一般質問、各常任委員会の審議を経て、29日最終日に提案された議案すべてが賛成多数、あるいは全会一致で可決されました。日本共産党市会議員団は提案された16件のうち3件に反対、13件に賛成しました。



反対した議案

- ①補正予算
- ②学校給食の民間委託分に本町小学校を加えるという条例
- ③伏虎中学校跡地へ県立医大薬学部を誘致するための無償譲渡にかかわる条例

条例③の3つの問題点（総務委員会で指摘）

- 1. 併設される市民会館の基本計画は今年の11月に提案されるにもかかわらず、それに先立って跡地の敷地面積のうち7000㎡を貸す
- 2. 条例の定める期間が時限立法になっている
- 3. 県立医大を特定し誘致しようとしているのに、条例はどこでも名乗りを上げることができるようになっている

私たち、共産党市議団は市民会館が市民の望む、使い勝手の良いものになるかどうかを検証するまでは無償譲渡の議案を出すべきではないと主張してきました。

さらに、提案された条例に不備があることが明らかになった以上、この条例は白紙撤回し、しかるべき時期に再提出すよう求めました。



無料法律相談

10月14日（金）午後6時～
10月25日（火）午後1時～

津秦 森下さち子事務所にて
※事前に予約のお電話をお願いします。



TEL 435-1113
(共産党市議団 控室
森下佐知子まで)



今年もお楽しみに！

「さっちゃんまつり」

鳴神社東の広場にて

11月13日(日)10:30～

雨天中止、小雨決行



ジャズ演奏、フラダンス、
子どもの広場、模擬店(野菜
など)、餅つき

日本共産党発行



日刊●月3497円
日曜版●月823円



「子ども食堂」
つてご存知で
すか？

子どもの貧困が取り沙汰される中、地域のボランティアの人たちが、定時に食事を提供する取り組みです。和歌山市でも数か所、実施されています。

少子化の中、あるいはシングルで子育てに奮闘しているうち、生活が後回しになってしまう家庭など、地域の力で支えようという取り組みの一環として始まりました。

決まった時間に温かい食事を食べる、たわいない会話の中でゆったりする、それが「子ども食堂」。そこに関わるボランティアの方は、調理や見守り、宿題のお手伝い、野菜の提供などどれもさりげない支えですが、なくてはならない毎日の営み。私も微力ながら、何かの役に立てたらの思いです。

